

佐瀬一洋・順天堂大学教授が

出張授業

東京都葛飾区の都立葛飾商業高校で12月19日、日本対がん協会の協力でがん教育の出張授業が行われた。講師は、循環器の専門医であり、自身も骨軟部肉腫という希少がんの経験者である佐瀬一洋・順天堂大学大学院教授。この日は、定時制の生徒70人を対象に、がんについて約50分の授業を行った。

佐瀬教授は、8年前に悪性の骨軟部肉腫を発症し、手術の前後2年間にわたって抗がん剤による治療を受けた経験を持つ。授業で佐瀬教授は、病気がわかったときには、同じ病気を扱った映画やドラマが作られていて、いずれも主人公が亡くなる悲劇として描かれて、悲しい気持ちになったが、生存率が上がるという新しい治療法の論文に出会い、乗り切ってきたことを紹介。そうしたことへの感謝の気持ちから、がんについて正しい知識を知ってもら

おうと、がん教育にかかわってきていることを話した。

その上で、長寿化の結果、がんが増え、日本人の2人に1人ががんになることや、年間で3人に1人ががんで亡くなっている状況を説明。文部科学省がホームページで公表している「がん教育推進のための教材」のスライドが画面や

日本対がん協会が作成したアニメ動画教材「がんって何？」の場面も使いながら、①がんはだれでもなる可能性のある身近な病気で、もはや不治の病でない②多くのがんは予防と発見が有効③正しい情報を得ることの大切さ — の3点について、わかりやすく解説した。

がんも原因には生活習慣やウイルスなどがあり、生活習慣などで予防できるがんもあることから、女性では早めに子宮頸がん検診を受けることなど、がん年齢になったら定期的に検診を受



授業する佐瀬教授

けることや、タバコを吸わないことの大切さを訴えた。

また、がんについて正しい情報を見つけることの大切さについては、ネット上では、誤った情報も混在していることを知った上で、国立がん研究センターなど、信頼できる公的な機関の情報発信サイトで情報検索して吟味することをアドバイスした。

さらに、がんを正しく理解して、普段通りに接してくれることががん患者の願いであることなども紹介された。